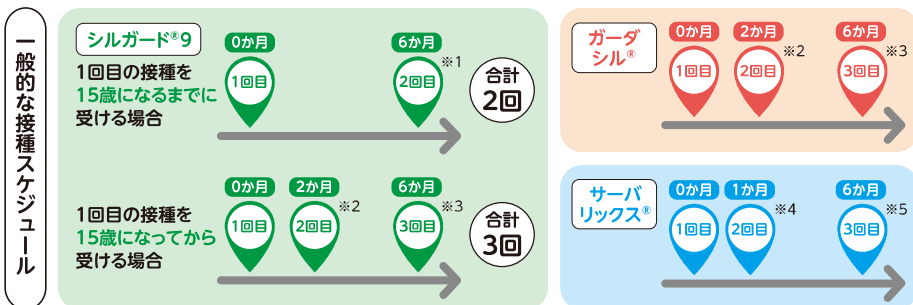


接種スケジュール

一定の間隔をあけて、同じワクチンを合計2回または3回接種します。接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。



3種類いずれも1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。

※1 1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。

※2・3 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。

※4・5 2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※4）、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月以上（※5）あけます。

HPV ワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

▶接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関

※愛知県は協力医療機関が11施設（うち名古屋市内は3施設）（令和7年1月現在）あり、バックアップ体制を整えています。

協力医療機関の受診については、接種を行った医師又はかかりつけの医師にご相談ください。

不安や疑問があるとき、健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき

▶下記の予防接種電話相談窓口

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

▶厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。



HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご覧ください。



厚生省 HPV

問い合わせ先

名古屋子宮頸がん予防接種電話相談窓口 052-972-3379

名古屋市予防接種電話相談窓口 052-972-3969

名古屋市健康福祉局感染症対策課

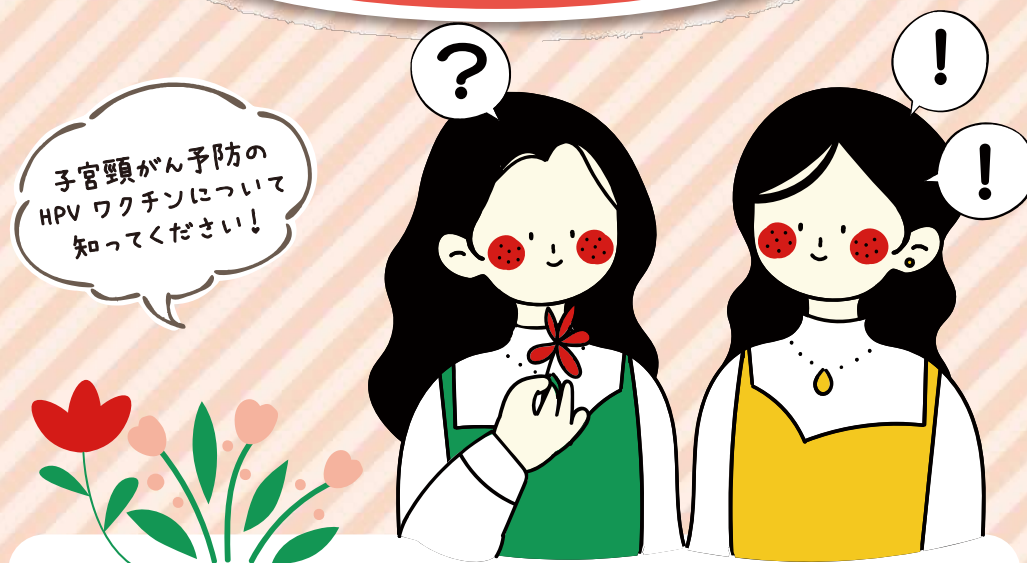
名古屋市公式ウェブサイト <https://www.city.nagoya.jp/>

87318 ページID 検索 で検索



子宮頸がん予防接種の大切なお知らせ

あなたと関係のある
“がん”があります



子宮頸がんとはどんな病気?

子宮頸がんは、子宮頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんで、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。日本では毎年、約1万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約3,000人の女性が亡くなっています。

患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に約1,000人います。

まずは病気とワクチンについて知ってください!

※このお知らせは国のHPVワクチンに関するリーフレット（2025年2月改訂版）をもとに作成しました。

ウイルス感染でおこる子宮頸がん

「がんってたばこでなるんでしょ?」「オトナになるものだから私は関係ない」って思っていますか?

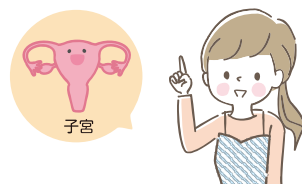
実はウイルスの感染がきっかけでおこるがんもあり、その1つに子宮頸がんがあります。HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因と考えられていますが、このウイルスは、**女性の多くが「一生に一度は感染する」といわれるウイルス**です(※)。

感染しても、ほとんどの人は自然に消えますが、**一部の人でがんになってしまう**ことがあります。現在、感染した後にどのような人ががんになるのかわかっていないため、**感染を防ぐことががんにならないための手段**です。

(※) HPVは一度でも性的接触の経験があれば、誰でも感染する可能性があります。

子宮頸がんで苦しまないためにできること

- ① **今できること：HPV ワクチン**
▶ HPVの感染を予防します
- ② **20 歳になったらできること：子宮頸がん検診**
▶ がんを早期発見し治療します
▶ 20歳以上の方は、定期的に受診を



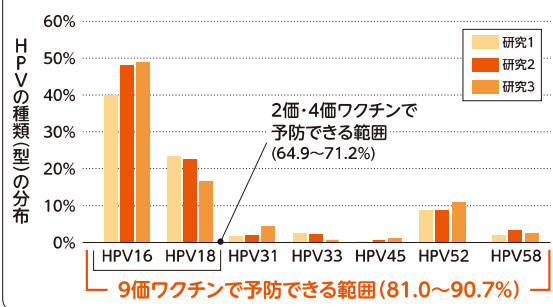
HPV ワクチンの効果

現在日本において公費で受けられるHPVワクチンは、防ぐことができるHPVの種類(型)によって、2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、9価ワクチン(シルガード®9)の3種類あります。

サーバリックス®およびガーダシル®は、子宮頸がんを起こしやすい種類(型)であるHPV16型と18型の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぎます※1。

シルガード®9は、HPV16型と18型に加え、ほかの5種類※2のHPVの感染も防ぐため、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぎます※3。

日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類(型)の分布と、ワクチンで予防できる範囲



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン ファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成
研究1: Onuki,M.,et al.(2009).Cancer Sci 100(7): 1312-1316
研究2: Azuma,Y.,et al.(2014).Jpn J Clin Oncol 44(10):910-917.
研究3: Sakamoto, J.,et al.(2018).Papillomavirus Res 6:46-51.

※1・3 HPV16型と18型が子宮頸がんの原因の50～70%を占め(※1)、HPV31型、33型、45型、52型、58型まで含めると、子宮頸がんの原因の80～90%を占めます。(※3)また、子宮頸がんそのものの予防については引き続き評価が行われている状況です。これまでのサーバリックス®およびガーダシル®での知見を踏まえると、子宮頸がんに対する発症予防効果が期待できます(※3)。

※2 HPV31型、33型、45型、52型、58型

HPV ワクチンのリスク

HPVワクチン接種後には、**接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります**。
稀ですが、重い症状(重いアレルギー症状、神経系の症状)が起こることがあります。

発生頻度	2価ワクチン(サーバリックス®)	4価ワクチン(ガーダシル®)	9価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	どうつう、はっせき、しゅちよう、ひろう 疼痛※、発赤、腫脹※、疲労	疼痛※	疼痛※
10～50%未満	そうよう 掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、 関節痛、頭痛など	こうはん 紅斑※、腫脹※	腫脹※、紅斑※、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感※、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、 そう痒感※、発熱、疲労、内出血※など
1%未満	知覚異常※、感覚鈍麻、 ぜんしん 全身の脱力	けり 下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、 こうけつ 硬結※、出血、不快感※、倦怠感※など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血※、 血腫※、倦怠感、硬結※など
頻度不明	ししつう 四肢痛、失神、リンパ節症など	おうつ 失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、 ひろう 疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第3版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

※接種した部位の症状

因果関係があるかどうかかわからないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて、HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約9人、シルガード®9では約3人です。

このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種1万人あたり、サーバリックス®またはガーダシル®では約5人、シルガード®9では約2人です。

ワクチン接種の注意点

- 筋肉注射という方法の注射で、うでや太ももに接種します。(インフルエンザの予防接種等と比べて、痛みが強いと感じる方もいます。)
- 注射針を刺した直後から、強い痛みやしびれを感じた場合は、すぐに医師にお伝えください。
- 痛みや緊張等によって接種直後に一時的に失神や立ちくらみ等が生じることがあります。接種後30分程度は安静にして、接種を受けた日は、はげしい運動は控えましょう。
- 接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種を行った医療機関の医師にご相談ください。
- ワクチンを合計2回または3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れた場合は、それ以降の接種をやめることができます。



予防接種健康被害について

予防接種は極めて稀ですが、接種を受けた方に重い健康被害を生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、全ての定期接種のワクチン接種によって健康被害が生じた場合は、自治体の予防接種担当窓口で相談することができます。

連絡先は、問い合わせ先をご覧ください。